

第12回『界面活性剤評価・試験法』セミナー

主催：公益社団法人 日本油化学会

会期：平成26年11月17日(月)～18日(火)

会場：油脂工業会館9階会議室 (〒103-0027 東京都中央区日本橋3-13-11)

テキスト：『界面活性剤評価・試験法』(日本油化学会編)

洗剤、化粧品、塗料などの研究開発においては、界面の解析が重要になります。これら界面の性質は界面活性剤の添加により操ることが可能であり、界面活性剤に関する基礎的・実用的な評価が必要不可欠です。本セミナーでは、『界面活性剤評価・試験法』(日本油化学会編)をテキストとして用い、参加者からの要望の多い領域を中心にベテランの講師陣による充実した講義を実施しております。関連する業界にお勤めの若手研究者の皆さまをはじめ、コロイド・界面化学の分野を専攻している学生の皆さま、さらにはこういった分野をあらためて見直そうとされる中堅の皆さままで、本セミナーがお役にたつことを祈念しております。皆さまの積極的なご参加をお待ち申し上げます。

プログラム

11月17日(月)

1. 散乱法によるキャラクタリゼーション

10:00～11:10

首都大学東京 加藤 直氏

ミセル・高分子・コロイド等の形状や大きさを知るための手段として、光散乱とX線・中性子小角散乱を取り上げ、共通の原理を概説した後、個々の手法の特色や最近のトピックスについて述べる。

2. 脂質の分子状態および集合状態

11:20～12:30

北里大学 岩橋 慎夫氏

脂肪酸、アルコール、アシルグリセロールの分子構造と物性の関係を知ることは化粧品・医薬品・食品分野にとって重要である。近赤外分光法、NMR、X線回析、蒸気圧浸透法、密度測定、DSCを用いた評価について概説する。

3. 界面活性剤の相挙動：考え方と評価法

13:40～14:50

千葉科学大学 山下 裕司氏

相図はある物理的条件(温度、圧力など)のもとで複数の物質の存在状態を表すもので状態図とも言います。本講演では種々の条件下で形成されるミセルや液晶など異なる分子集合体の基礎について、相状態を知るという観点から解説します。

4. 泡と洗浄の界面変化を評価する

15:00～16:10

ライオン(株) 金子 行裕氏

衣料・台所・身体用洗剤、化粧品の主機能となる起泡、消泡、洗浄について、主剤である界面活性剤の役割と界面現象にフォーカスして解説し、評価の考え方、方法を説明する。

11月18日(火)

5. 界面活性剤の基礎物性と用途

10:00～11:20

横浜国立大学 荒牧 賢治氏

各種界面活性剤の分子構造の特徴について説明します。また、界面活性剤溶液の溶液物性・界面物性、主な用途について概説します。

6. 乳化・可溶化の評価・試験法と応用

12:30～13:40

(株)資生堂 渡辺 啓氏

乳化物(エマルション)、可溶化物(マイクロエマルション)は、それぞれ熱力学的非平衡系、平衡系に分類されるが、

